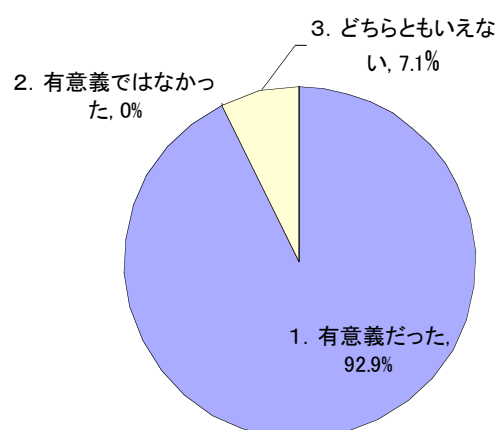


平成19年度 第3回全学FD アンケート結果について

実施日	: 平成20年1月23日(水)
参加者数	: 71人
回収枚数	: 42枚
回収率	: 59.2%

質問1 教育GPの意義を理解し教育プログラムを企画・実施するうえで有意義でしたか。

1. 有意義だった 39 (92.9%)
2. 有意義ではなかった 0 (0%)
3. どちらともいえない 3 (7.1%)



質問2 質問1「どちらともいえない」の理由

- ・九大全体としての教育の取組（戦略）についても聞きたかった。
- ・自分たちが置かれている立場（学府）で、有意義なGPのヒントがすぐには思いつかなかった。

質問3 今回の全学FDの中で特に印象深かった企画は何ですか。(複数回答)

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. 解説「高等教育行政と教育GP」 | 8 (全体の19.0%) |
| 2. 取組紹介① 数理学府 | 29 (69.0%) |
| 3. 取組紹介② 医療系学部連携 | 20 (47.6%) |
| 4. 質疑応答 | 10 (23.8%) |

<理由> 1. 国際的な信頼性、通用制を明確に課題とした点/適確で、簡潔なプレゼンテーションであった。背景とその方向性について良く分かった/大学の教育改革の枠組みを知る事ができた

2. 取組が斬新な発想に基づいており参考になりました/数学という分野で、どのように考え、教育方法の改善を企画することが、教育GPということなのか、実践的なことが少し分かったように思う/改革のために、大変な努力をされていることに感銘を受けた/現場の問題点を解決しつつ、GPを動かした点が優れている/数学↔産業の直接的な連携の試みは有意義と感じました/3ヶ月インターンシップ制という手法を戦術とした点が参考になった/組織を見直すきっかけともなることがわかった/数学は役に立たない、と正直軽蔑していました。しかし、このような取組をやったのけた若山先生は素晴らしい! 数学に対する固定観念を打破するプログラム、さぞご苦労があったと思いますが、数学を志す学生にとっての“希望”になると思います。このプログラムで教育が受けられる学生が羨ましいです。

3. 取組がユニーク/成果が上がっていると感じられた/申請、採択に至る苦労話 etc. 外部評価の目の付け所/デジタルコンテンツの著作権の問題は重要と考えます。全学的な取組をお願いします/事例紹介に徹底していたので分かりやすかった。全体的に予備知識が不要であったのは理解に助かります

4. 話が具体的なものだったので、質疑が出しやすかったのではないかと思います。すべてのGPについて、この手の報告会を行ってはどうだろうか/とても新鮮! 絶対的によい!/部局・教職員における問題点を知ることができた

質問 4 来年度の教育 GP のうち、興味をもったプログラムは何ですか。(複数回答)

1. 大学病院連携型高度医療人養成推進事業	2
2. がんプロフェッショナル養成プラン	0
3. 質の高い大学教育推進プログラム	16
4. 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム	7
5. 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム	5
6. 国際共同・連携支援	9
7. 海外先進教育研究実践支援	2
8. 長期海外留学支援	2
9. 専門職大学院における高度専門職業人養成教育推進プログラム	5
10. 産学連携による実践型人材育成事業	5
11. 先導的 IT スペシャリスト育成推進プログラム	1
12. グローバル COE プログラム	5
13. 大学院教育改革支援プログラム	12
14. 戦略的大学連携支援事業	7

質問 5 あなたの所属する部局でプログラムを申請するとしたらどのようなプログラムが可能であると考えますか。

- ・ H19 年度採択され、H21 年度まで継続される糸島現代 GP を、その終了後、医学研究院と連携し、医療・福祉・環境の各教育を融合させた展開はおもしろいと思う。
- ・ (教員の留学制度が出来れば) 医療系専門職の人達に対する生涯教育
- ・ 入学前から入学直後の学生を対象として、質の高い大学生活へのガイダンスを行う。学ぶ態度、きっかけ作り。
- ・ 医師国家試験に準じた、標準化された実技試験の開発実施に向けて多くの医学部と取り組みたい。
- ・ 地域の事業再生プログラム (ビジネス教育)
- ・ Executive プログラムの設置
- ・ 九大は、すべての部局で COE に挑戦すべきではないか?
- ・ ダブルディグリー (ジョイントディグリー) を何とか実現したい。
- ・ 大学共同利用機関法人や独立行政法人の研究所と連携した教育プログラムがあったら面白いと思います。特に理系は自分の専門分野で今どういう取組がされているか、観測・実験装置で何がされているか、知ることによって理解も深まり、

その分野の社会的役割も分かってくると思います。将来の進路の選択肢もきっと増えます。

- ・部局の位置づけから他の申請における協力という形で参加したい。
- ・地域連携、企業～産官学の連携
- ・eラーニングの著作権処理→この解決策自体をプロジェクト申請してもよいかもしれない。

質問6 プログラム申請にあたり望まれる支援体制について要望等ありましたらお書きください。

- ・申請書を作成する段階からの入念な情報提供指導
- ・大学から採択プログラムの継続を支援するようにお願いしたい。
- ・事務体制～特に、高度な事務・企画を伝える人材の確保
- ・ボトムアップ方式よりトップダウン方式で九大全体とし方策を考えるべき
- ・TV会議システムの設定を充実させてください。
- ・著作権処理組織を大学で準備してほしい

質問7 全学FDに対する意見、提案等ありましたら自由にお書きください。

- ・今回のような具体的事例報告を中心とした講演会は非常に有用だと思います。
- ・講演内容などWebで配信できますか。
- ・学生指導を丁寧に行って成果を上げている私立大学から講師を呼んでいただき、具体的な話を聞きたい
- ・会議の開催時期と時間等を考慮いただきたい。学期末の多忙な時期は避けていただきたい。
- ・回数を増やすべき
- ・eラーニング・著作権に関するFD